

## 中間支援活動助成(基本)事業実績報告

団体名	認定特定非営利活動法人 ソーシャルデザインセンター淡路	代表者名	理事長 木田 薫
事業名	SODA地域応援事業2023		

### < 事業実施実績 >

	相談業務 延べ回数/団体数	ネットワークの構築・情報提供 件数	人材育成 (講座開設等) 延べ参加人数/回数	書類作成指導 件数	その他 (調査研究等) 件数
R4 実績	11	11	110 人/1	1	3
R5 計画	5	10	60 人/2	1	2
R5 実績	15	19	52 人/1	1	3

### < 効果と成果 >

はじめに不登校・ひきこもり支援において島内のネットワークが飛躍的に広がっただけでなくそのネットワークが活かされるような事業が生まれている。次に、島内の高校生を対象としたフォーラムは、3年目を迎え島内の各学校からの支持を受けて、高校の先生方が私たちと一緒に企画に加わり、場を作り出していくという理想的な形へと変化しつつある。参加する側がお客様になるのではなく、こうした場を用意することで子どもたち自身があるいは先生方が主人公になれるような仕掛けを今後も進めていきたい。また、今年度は、この企画を淡路県民局との共催という形で開催できたことは、官民連携のモデルとしての成果もあったといえる。空き家対策については、南あわじ市に働きかけて講座を開催するに至った。まずは空き家が多くある福良地区で実施。講座の後で市役所からも空き家の支援助成について話していただきとても好評に終わった。市の方から来年度もこうした講座を各地で共催したいとのこと。また、福良地域で古民家活用に取り組もうとしているグループとのつながりが持てたことも大きな成果と言える。今後は中間支援の立場で空き家対策に必要な異業種の連携を試みたい。

### < 今後の展望 >

不登校、ひきこもり等の社会的弱者を中心に据えた活動を通して、行政だけではなくその支援者や事業所、病院などとのつながりが年々深まっていることを実感している。さらにエコバックづくりを通して、独居老人などの孤独な人たちとのつながりが持てる可能性が見いだされた一年だった。地域には、社会福祉協議会などの支援団体がある。NPO の活動だけでは小さな一歩にしか過ぎないが、地域の中で活動している支援団体が課題を共有し取り組むことで一気に広がりをみせることができる。空き家問題にしても然り。私たちは、小さな石を投げたに過ぎない。しかしやって見せることで次に広がっていき前へと進むことができる。SODA は、地域の中でネットワークを構築することが得意である。まずは、問題を提起し小さな実践を積み重ねながら多様なニーズに答えていけるようにこれからも頑張って活動を続けていきたい。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
SODA 寄付金	1,308
合計	501,308

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経費	委託費	200,000	200,000
	旅費交通費	85,869	85,869
	謝金	38,000	38,000
	その他 (印刷費等)	31,803	31,803
	小 計	355,442	355,442
	間接経費 (一般管理費)	145,866	144,558
	合 計	501,308	500,000